３　指宿地域のサツマイモ基腐病対策によるさつまいもの生産安定

サツマイモ基腐病被害軽減技術の取組

成果の要約

１　作業部会員で４週間おきにさつまいもほ場を一筆毎巡回調査し，発生株の早期発見，早期抜き取り・防除等呼びかけた結果，被害「少」以下を 100%に抑えることができた。
２　残渣処理，早期耕耘，体系的な防除，耕種と畜産部門との農地交換，チラシ作成・集落班毎回覧等を行った結果，313.8ha の未発生ほ場の確保に繋がった。

１　対象

（１）基腐病対策 PT 指宿市作業部会
（２）実証農家　１戸
（３）さつまいも栽培農家　333 戸

２　課題を取り上げた理由

（１） サツマイモ基腐病は，平成 30 年に開聞地区で発生が確認され，平成２年には市内全域に，令和３年には作付面積の 80%まで被害が拡大した。
（２）基腐病の発生抑止に向けて基腐病対策ＰＴを中心に防除対策技術の確立や普及が進められ，令和５年以降の被害発生は減少傾向である。今後も発生抑止対策の継続した取組のもとにさつまいも産地の維持，さつまいも農家の経営安定を図る必要がある。

３　活動の内容及び成果

（１）指宿市WGの活動支援
ア　さつまいもの病害対策推進
農政普及課指宿市十二町駐在，指宿市，ＪＡいぶすき，鹿児島県くみあい食品で南薩地域サツマイモ基腐病対策ＰＴ指宿市作業部会を構成し，ワンチームとして防除対策指導に取組んだ。

イ　基腐病発生状況の把握
指宿市作業部会では,4月から９月まで４週間おきにさつまいもほ場の巡回調査を行い，早期発見，早期抜き取り・防除等を指導した（写真１）。
令和７年産基腐病発生割合は，無：92%，微（３%未満）：８%，少（３～20%）：０%，中以上(21～100%)：０%となり，被害「少」以下を 100%に抑えることができ，313.8ha の未発生ほ場の確保に繋がった。



写真１　作業部会員による一筆毎巡回調査

（２）基腐病対策の実践支援
ア　被害軽減技術（高温対策）の実証
初期生育期の高温対策として，黒マルチ（従来）と白黒ダブルマルチを用いた実証を行った。その結果，生育初期の発病度にはほとんど差がなかったものの，収穫時の再萌芽率は黒マルチの方が高いという傾向が認められた。しかし，白黒ダブルマルチでは，少数ながらひげ根の発生が認められたため，今後も継続して観察を続けていく必要があると考えられた（写真２）。

イ　被害軽減に向けた指導
サツマイモ基腐病に関する知識や蔓延防止基本技術の理解促進等を図るため，11 月に講習会を開催し，「持ち込まない，増やさない，残さない」の３つの基本的な発生対策の理解と実践への誘導に努めた。



写真２　基腐病被害軽減技術の実証ほ

※ 発生防除基本技術

① 健全農地の確保　②健全苗の確保
③ 育苗床の消毒と全面被覆　④苗消毒
⑤ ほ場の消毒　⑥　排水対策
⑦ 発生株の早期発見・早期抜き取り・防除
⑧ フロンサイドSCを核とした薬剤散布
⑨ 残渣処理

また，作業部会では，啓発用のチラシを作成し，市内全集落へ回覧を行い，サツマイモ基腐病対策の周知と発生抑止の理解及び実践への誘導に努めた（写真３）。



写真３　サツマイモ基腐等病害防除対策講習

今後の課題

（１）「持ち込まない，増やさない，残さない」の３つの基本対策技術の周知と理解及びその実践
（２）サツマイモ基腐病以外の塊根腐敗症状（茎根腐細菌病等）の発生に対応するための現地実態把握や対応策の検討（写真４）
（３）スマート技術（農業用ドローン等）を用いたさつまいも病害虫防除の検討



写真４　サツマイモ基腐病以外の塊根腐敗の発生

５　担当した普及職員（○はチーフ）

○楠畑，福山，上西窪